

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名称…グループホーム 久米の家

サービス種類…認知症対応型共同生活介護

会議開催日…令和 8 年 7 月 29 日（水） 14 時 00 分～14 時 30 分まで

開催場所…小規模多機能型居宅事業所 ほっと 2 階 ホール

出席者

事業所	2 人	利用者	0 人
利用者家族	0 人	地域代表者	1 人
松江市職員	1 人	包括支援センター	1 人
知見を有する者	0 人	その他（ほっと職員）	1 人

議事

○活動報告

ご利用者 9 名 男性 3 名 女性 6 名 平均介護度 2.2 平均年齢 87.3 歳

最少 74 歳 最高 96 歳

職員 管理者 1 名 ケアマネジャー 1 名

介護職員 10 名（常勤 8 非常勤 1 常勤 1 名休職中）

調理職員 1 名（非常勤）

*子の短縮時間制度利用中 3 名 *介護短縮時間 週一 1 名

*有休は、月 1 日取得しているが 7 月は暑い日も多く、有休 2 日取得に繋がった。

7 月注意したケア…夏の乾燥肌対策・熱中症対策（室温・日中夜のこまめな水分）

感染…なし 事故…なし 苦情…なし

ヒヤリハット 1 件

地域交流 ギター演奏会・公民館活動

外出 バケバケ展 買い物外出

委員会活動

BCP	・災害時出勤出来る職員を調査し災害別に担当を決める。 ・災害時の通信の確保として、衛星通信をデモで使用してみたり、00000JAPAN や JAPAN ローミングの共有、スターリンクなど職員間で共有した。 ・4 つの班のうち「誘導班」のマニュアル変更し紹介する。 ・救護班の災害時処置箱と処置マニュアルも紹介する。 ・更衣室も防災使用に配置換えを行う。 ・防災の各班で持ち場を決め、毎月危険個所はないか確認する事になる。毎月交代でする事で全員が意識する事が目的。危ないな…と思った場所は改善に繋げる。
-----	--

○事例検討について

A さん 83 歳 女性 介護 1

家事的な事が嫌いで、在宅で独居の時から買い物や友人達との集まりを楽しみにして

いた。生活の楽しみはお出掛けや友人との茶話会でありホーム入居と同時に関係性が途切れてしまい、周辺症状に繋がってしまったケースを相談する。6月の推進会で公民館活動の紹介があり、早速「ボッチャ」に参加した事を伝える。友人との茶話会も友人の方に協力を得て市内の友人宅まで送迎し茶話会を実施する。とてもよかったようで、次は食事会の相談を受ける。その上で外食時の移動時における事故等を推進会で相談する。

○意見交換

- ・松江市の方でも外出時（職員が付き添えない時）の事故について協議してみますとの事。
- ・ご利用者の中には、時々1人で何処かに行きたい・・・と意見もあり、どうしてあげたらいいか事業所でも悩んでいる事も伝える。
- ・包括支援センターさんより「高齢者お役立ち情報」やカフェ太郎でも喫茶等を行っている情報を頂く。
- ・防災も見直しをされ、真剣に取り組んでいかれていると感じた・・・と意見あり。

※事業所確認欄

☐ 活動報告についての評価を受けることができたか。	○
☐ 要望・助言等受ける機会を設けたか。	○